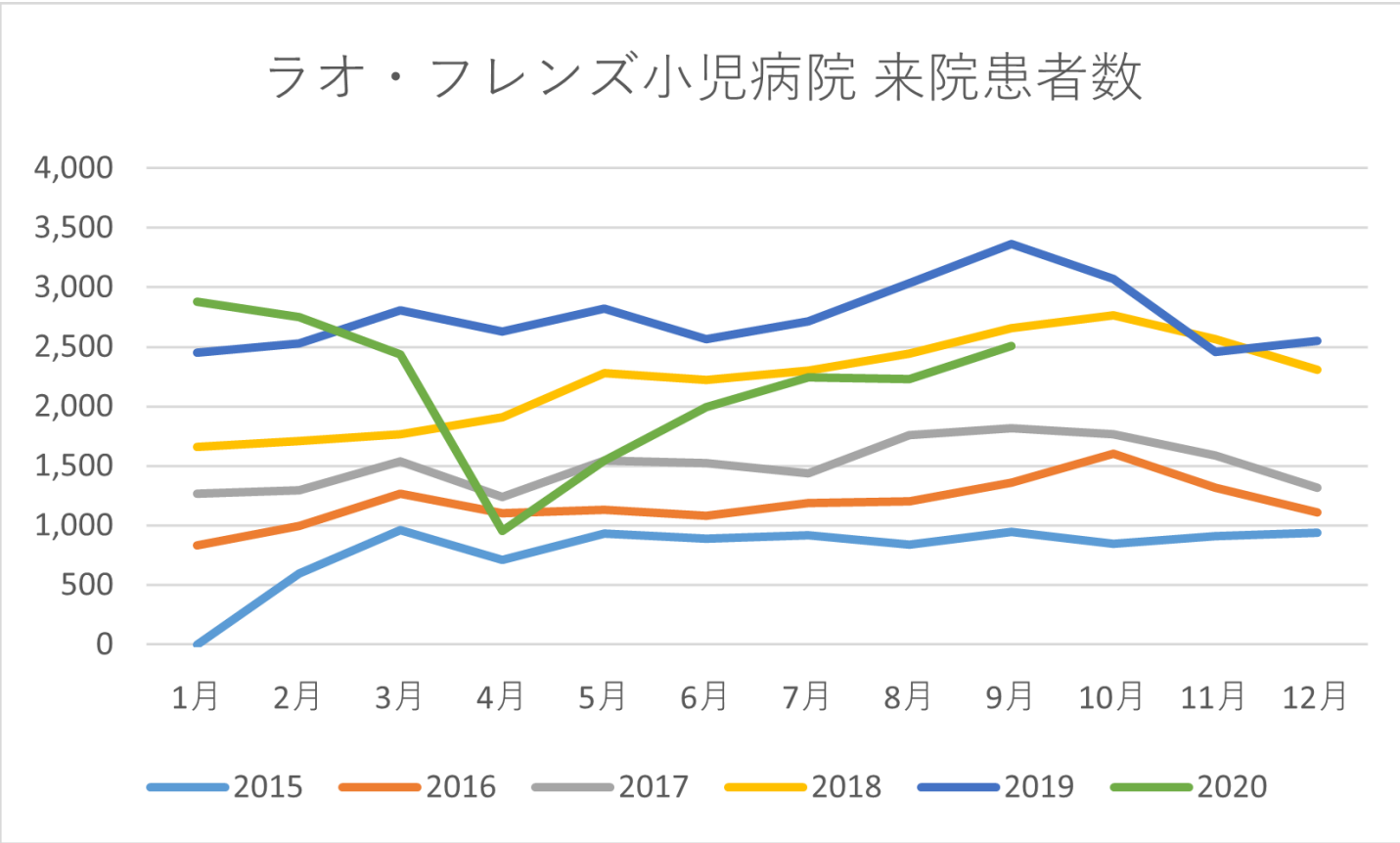
ラオ・フレンズ小児病院　2020年の出来事

今年最初の出来事をお送りする予定だった2月から3月にかけて、コロナ感染の世界的な拡大がみられました。ラオスでも3月24日に最初の感染者報告があり、国内外の移動が制限されるロックダウンが行われ、病院の活動にも影響が出てしまいました。その後も感染の拡大が収まることなく今を迎える状況は、誰も予想できなかったことと思います。しかしその間も、病院は子供の診療を止めることはできません。外国人専門家が緊急帰国してしまった後も、ラオス人スタッフが中心になり、日々来院する患者さん、来院するかもしれない患者さんのために頑張っておりました。

そのような状況下、コロナ感染が落ち着いたらと引き延ばしていた“出来事”によるご報告ですが、送付のチャンスを逸してしまい、既に12月を迎えることとなってしまいました。今年最初で最後の出来事となってしまいますが、ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）でのコロナ対応も含め、“変化の時”の病院の様子をお届けしたいと思います。

Copyright © 2020 Friends Without A Border. All rights reserved.

コロナ感染が拡大し始めてからというもの、日々ネガティブなニュースばかりが増え、多くの人が下を向いてしまっているように思いました。そこで、以前から私個人で続けていたブログ上で、“コロナでもいいことあった”シリーズを掲載することに。嬉しかったこと、楽しかったこと、ホッとしたことなど上を向いて歩けるようなお話の掲載を始めました。今回の出来事は主にその中で病院に関わることを抜粋してご紹介したいと思います。

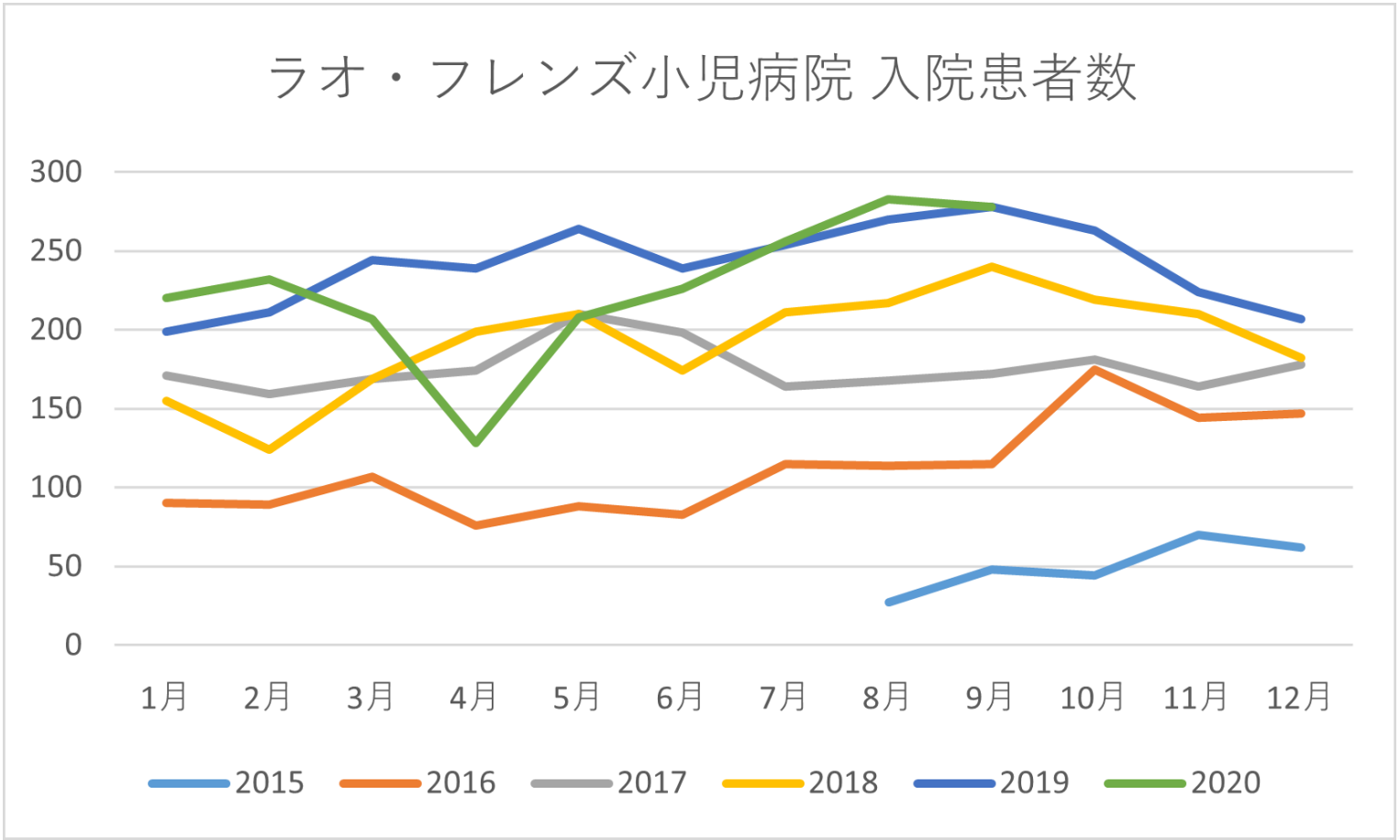


まずは、患者統計からご紹介いたします。こちらは来院患者数の動向です。

統計欄では「毎年来院患者数は前年より増えている」とお伝えすることが常でしたが、2020年のラインは3月から下降し、4月に大幅に落ち込んでいます。これは、政府が国外のみならず、国内の移動も厳しく制限するロックダウンを実施したことが反映されています。ロックダウン解除後には徐々に来院患者数も元に戻りつつあり、９月には昨年６月のレベルまで戻ってきています。

Copyright © 2020 Friends Without A Border. All rights reserved.

この統計は、入院した患者さんの動向です。こちらもロックダウンにより4月に大きく落ち込みましたが、解除後は一気に増え、前年度の同時期を超えるまでになりました。ロックダウンの間に悪化してしまった子供たちが多くなってしまったのではないか、気になるところです。



Copyright © 2020 Friends Without A Border. All rights reserved.

スーパーマンも手洗いゴシゴシ

先日、手洗い励行がほんとの手洗い励行になったとブログで書いたのですが、昨日から毎朝、外来の患者さんに手洗い指導をするようになりました。まず、手洗いがなぜ必要なのかを説明して、病院の手洗いポスターを使って、指、爪の中、手首までしっかり洗う方法をステップごとにデモンストレーションします。そのあとに一人ずつ一緒に洗ってもらいます。今日はちびっこスーパーマンも手洗い練習です。
手洗い後は、特別な手になったかのように腕を伸ばして見上げていました。洗ったら特別な手になる！これ、いいですよね～。みんなに見せびらかしていましたよ。これまで全然根付かなかった『手洗い励行』がこんなに定着するなんて、さすが、コロナパワー！この習慣が根付けば、この国の感染症で苦しむ子が激減するんじゃないかなー。期待しましょう！

コロナ対策万全

ラオスでの最初のコロナ感染報告は3月24日でした。LFHCでもいつ感染者対応をすることになるかわかりません。保健局からの指示で防御ガウン、マスク、ゴーグルにキャップをかぶっての対応となりました。外来では入り口の外でスクリーニングをする体制に配置を変え、またスタッフは感染対策のためのシュミレーショントレーニングをして備えることになりました。
万が一ラオス国内で感染が広がるようなことがあれば、一気に拡大する可能性が高いと予測されます。マスクや手洗いの水さえ入手することが難しい地域が多い上、医療体制も整っていないからです。とにかく、水際で食い止めなければなりません。

Copyright © 2020 Friends Without A Border. All rights reserved.

ロックダウンの影響

感染拡大を防ぐため、ラオスでも約1か月のロックダウンが実施されました。国外のみならず、国内の県、郡の移動も制限され、前出のグラフにも表れているように、病院への道も閉ざされてしまいました。また院内の不急の診療（中等度の栄養失調の定期診療、血液疾患“サラセミア”の輸血を必要としない定期診療など）は、一時停止しなければなりませんでした。村の中にはヘルスセンターという初期診療ができる医療施設はありますが、あくまでも初期診療ですので、処置が遅れてしまうことはないかと心配がつのりました。

訪問看護の患者さんの中には、とても気がかりな患者さんもいます。ロックダウンにより訪問看護にも制限が出てしまいましたが、スタッフで話し合い、患者さんを厳選し、保健局から許可証をもらって訪問を続行しました。

気になっていた訪問看護の患者さんの一人が、生後半年だったPちゃんです。Pちゃんは障がいを持って産まれてきました。ご両親にも障害があります。お母さんは母乳が出なかったので病院から粉ミルクを支援していましたが、粉ミルクの調合をどうしても覚えられません。そこで、1回ずつの粉ミルクを小分けにし、1日6回分をひとまとめにしたものを7日分作って、渡すことにしました（写真左）。その後は1週間毎に、Pちゃんの成長と健康状態を訪問看護でフォロー。同時に、ご両親の服薬に関しても管理していました。ロックダウン中ではありましたが、Pちゃん宅へは2週間に1度訪問し、村長さんにも協力を仰ぎながら、何とか乗り切ることができました！よかったです。

Copyright © 2020 Friends Without A Border. All rights reserved.

Zoomでミーティングも

私も4月に急遽日本へ戻ることとなり、現地のアウトリーチスタッフとはZoomでやり取りすることになりました。最初は不安そうでしたが、口うるさいおばばがいないので、ノビノビしているようでした。見なくていいところは見えないのがちょうどいい距離感ですね。見てしまえば黙っていられない質なので、もしかしたらそれが、スタッフの成長を妨げることになっていたのかも。自分で色々と経験をして、自分で感じることが大事なのだと思います。お陰で頼もしいほど成長しました！Zoom中にパチリ！

初オンライン教育セッション

ロックダウンに伴い、ラオス人スタッフを指導するために滞在していた外国人専門家が緊急帰国してしまいました。LFHCの運営は、将来ラオス人だけで活動を継続できるように、現地スタッフを育成することが大きな目的でもあります。スタッフ教育をどうにか継続したいと、日本のロータリークラブのご支援をいただき、オンライン教育のための機材を購入し、新しい教育の形を始めました。

Copyright © 2020 Friends Without A Border. All rights reserved.

スタッフの心の成長

スタッフの成長はスキルや知識ばかりではありませんでした。LFHCが一番大事にしているCompassionate care（思いやりのあるケア）の芽生えが各所に見え、とっても嬉しくなりました。一つは、身体の筋力が段々と弱っていく疾患を持つ患者さんK君を楽しませてあげたいと企画した、村の子供たちのためのカーニバル（写真右2枚）。K君は学校が大好きでした。けれども手足の筋力が少しずつ落ちて症状は日々進行し、学校へも行くことができなくなってしまいました。とても明るいK君ですが、訪問の度に寂しそうな表情を見ることが多くなりました。そんなK君が少しでも楽しい時間を過ごせるようなことをしたいと、考えた企画です。ゲームをしたり、ご飯を作ってみんなで食べたり、K君もとても嬉しそう。村長さんはじめ、みんなが協力してできたカーニバルでした。

そして、もう一つは村での健康教育。かなり遠方だったのと、農作業からみんなが戻る夜に開催したいということで、1泊2日の出張となりました。その風景が左の写真です。この村に住む患者さんが、病気にかかったことで差別をされてしまいました。その状況を解決したいと、郡の保健担当者と話し合い、この村で差別をなくすための教育をすることになったのです。スタッフがこの二つの出来事を報告してきた時、『誰かのために何かをしたい、することができた喜び』があふれ出るようだったのが、私にとっては大きな喜びでした。「やったね！」と、心でガッツポーズ！

Copyright © 2020 Friends Without A Border. All rights reserved.

地域への貢献

LFHCは、院内での診療はもとより、地域での健康増進・維持への貢献も重要な活動の一つと考えています。今年のコロナのパンデミックを受け、地域のニーズにこたえるべく、市内のレストランでスタッフへ手洗い指導を行いました（写真左上）。その際に用いた、手洗いがしっかりできていないことが目で見て分かるツール（写真右上）には、みんな驚いていたようです。
また、フードフェスティバルでは病院のブースを開設し、手洗いのデモンストレーションを行いました（写真左）。通りがかりの人たちと日常会話を交えながら、ポスターを使って手洗い指導。
いずれも、コミュニティとのつながりを感じる良い機会になりました。

Copyright © 2020 Friends Without A Border. All rights reserved.